

平成31年1月31日
富山県農林水産部

農林水産業における外国人就労状況調査の結果の概要について

1 調査概要

(1) 目的

本県農林水産業における外国人の就労状況及び事業者の意見等の把握

(2) 調査期間

平成30年11月29日～平成30年12月10日

(3) 調査方法

調査対象にアンケート用紙を配布

(4) 調査対象（調査対象110経営体、回答数104、回答率94.5%）

| 分野 | 県内の経営体数 | 調査対象経営体 | 調査対象経営体数 | 回答数 |
|--------------|---------|--|--------------|--------------|
| 農業 (畜産以外) | 1,586 | ① 農林振興センター等が把握している外国人雇用経営体 ② 求人募集をしている経営体及び富山県農業法人協会の会員 | ① 10 ② 45 | ① 10 ② 45 |
| 畜産 | 100 | ① 家畜保健衛生所が把握している外国人雇用経営体 ② 求人募集をしている経営体 | ① 11 ② 1 | ① 11 ② 1 |
| 林業 | 94 | 認定事業主 | 14 | 14 |
| 漁業 | 301 | ① 技能実習生を雇用している経営体 ② 求人募集をしている経営体 | ① 15 ② 14 | ① 15 ② 8 |
| 合計 | 2,081 | - | 110 | 104 |

※農業経営体数は認定農業者数

2 調査結果

(1) 外国人雇用状況（直近5年間）

| 分野 | 直近5年間の外国人雇用の有無 | 経営体数 | 直近5年間に雇用された外国人の実人数 (うち技能実習生) | H30.12時点で雇用されている外国人の数 (うち技能実習生) |
|--------------|----------------|------|---------------------------------|------------------------------------|
| 農業 (畜産以外) | 有 | 10 | 30人(24人) | 21人(16人) |
| | 無 | 45 | - | - |
| 畜産 | 有 | 11 | 53人(47人) | 44人(40人) |
| | 無 | 1 | - | - |
| 林業 | 有 | 5 | 9人(0人) | 3人(0人) |
| | 無 | 9 | - | - |
| 漁業 | 有 | 17 | 60人(59人) | 46人(46人) |
| | 無 | 6 | - | - |
| 合計 | 有 | 43 | 152人(130人) | 114人(102人) |
| | 無 | 61 | - | - |

(2) 分野別の状況

①農業（回答数：55経営体）

- ・ 外国人「雇用あり」は10経営体（「現在雇用している」は7経営体、「過去に雇用していた」は3経営体）で、過去5年間に雇用された外国人の8割(24/30人)が技能実習生
- ・ 技能実習生の半数(12/24人)がベトナム人、中国人とインドネシア人が各6人
- ・ 「現在雇用している」7経営体は全て「今後も外国人雇用を継続」と回答
- ・ 「雇用なし」の45経営体のうち13経営体が「今後、雇用を検討したい」と回答

②畜産（回答数：12経営体）

- ・ 外国人雇用ありは11経営体（現在10、過去1）で、過去5年間に雇用された外国人の約9割(47/53人)が技能実習生
- ・ 技能実習生の約9割(42/47人)がベトナム人
- ・ 現在雇用している10経営体は全て「今後も外国人雇用を継続」と回答

③林業（回答数：14経営体）

- ・ 外国人雇用ありは5経営体（現在3、過去2）で、過去5年間に雇用された外国人9名のうち技能実習生はゼロ
- ・ 現在雇用している3経営体は全て「今後も外国人雇用を継続」と回答
- ・ 雇用なしの9経営体のうち2経営体が「今後、雇用を検討」と回答

④漁業（回答数：23経営体）

- ・ 外国人雇用ありは17経営体（現在15、過去2）で、過去5年間に雇用された外国人のほとんど(59/60人)が技能実習生
- ・ 技能実習生は全員(59人)がインドネシア人
- ・ 現在雇用している15経営体は全て「今後も外国人雇用を継続」と回答
- ・ 雇用なしの6経営体のうち3経営体が「今後、雇用を検討」と回答

(3) 全体的な状況

- ・ 農業、畜産、漁業で雇用されている外国人は、約9割が技能実習生（林業は技能実習生ゼロ）
- ・ 現在外国人を雇用している経営体は、分野を問わず全てが「今後も外国人雇用を継続」と回答
- ・ 「外国人を雇用して苦労したことや課題」を尋ねる設問（記述）では、外国人の雇用実績のある43経営体のうち20経営体(47%)が「言葉の違いによるコミュニケーションの難しさ」を挙げている。